

デジタル ボイス

メルカウソンの魂を

安藤 房子

「小室哲哉容疑者を逮捕」には驚いた。そしてショックだった。それはたぶん、私がかつて作詞家をめざしていたからかもしれない。音楽の道というのは本当に険しく、私は結局のところ、インテリーズで一枚のCDを出しただけで挫折してしまっただけだ。

そんな私にしてみれば、小室さんはものすごい人だ。凡人がどんなにがんばっても、あんな曲にああいう言葉は乗せられない。あんな映像的でインパクトのあるフレーズはつむげない。彼はある意味、新しい作詞の手法を発明した人だと思う。

そんな彼の映像が、テレビで毎日流れている。彼が今大手芸能事務所に属していないからか、テレビ番組によって「これでもか」というくらいバツシングしていて、なんとも悲しい気持ちになってしまった。

アーティストには、事務的なことに弱い人が多い。契約書面をよくよま

に、周囲のプレッシャーが言うままにサインしてしまう傾向がある。

そういうことを、以前 アーティストの所属事務所を運営する中で感じた。フリーライターとしてさまざまなアーティストを取材したときにも見えた。だから、ついつい「小室さんもそうであってほしい」と思ってしまうのかもしれない。

今回の報道を見ながら、もつとつ

成功したがゆえに 生じる心の葛藤も

考えたことがある。成功者ならではの心の葛藤についてである。

私のところに相談メールを寄せる人の中にも、ときどき大成功をおさめた方がいる。みなさん、人間関係に悩んでいて、孤独である。成功したがゆえに、周囲には集まるのだが、どの人を信用していいのかわからなくなる。考えた末に信じた人から裏切られて、また悩みは深まっていく……そんなジレンマを感じている。

考えてみれば……。

こういう心の葛藤は、一般人である

私たちの日常にも通じるものがある。私にも、経験がある。会社を辞めてアルバイトをしながら夢に向かっていたころ、ある知人から、「おまえはいい年して何やってんだよ」と、吐き捨てるように言われた。が、その知人は、私が自分自身の仕事で収入を得始めること「安藤はずかしいよ」とほめ始めた。猫なで声だった。こういう、信頼していた人の豹変ぶりは辛い。

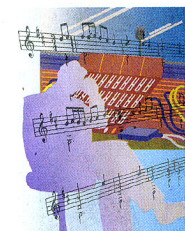
もつと辛かったのは、心から信頼していた仕事のパートナーから裏切られていた。

たときだった。その人が、陰であることないこと言っていることを知り、人間不信に陥ったこともある。

幸か不幸か、私は大金持ちでも大成者でもないで、失うものは人間関係だけだったのだけど。

それに、嫌な思いをしたおかげで、少しは人とのつきあい方を知ることができた。自分が信頼する人の基準ができた。私が信頼するのは、大げさに私をほめない人。かといってあまり責めない人。仕事の目的や納期を考えながらスムーズなコミュニケーションのできる人。自分を大きくも小さくも見せない人だ。

成功者の場合、私などよりずっと出会いが多いことだろう。その分、人を信頼する基準と人を見極める目を持っていて、そういう気がするが、どうなのだろう。



小室さんは、何を基準に周囲の人を信頼していたのだろう。どんな人をプレッシャーとしていたのだろう……。やっぱり、大物にしかわからない世界があるのかもしれない。

(恋愛カウンセラー・作家、大江町出身)

■ 次回は12月1日に掲載します